

# 熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町  
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス  
NPO法人はとやま環境フォーラム気付  
メール kawasemi3001@gmail.com☎049-227-3001 FAX 049-227-3068 ホームページ <https://hatoyama.info/>

## 1月・2月の活動予定

### ■新年あけましておめでとうございます



### 新年・意見交換 大ぼら吹き大会

1月14日(火)  
午後3時～5時  
かわせみハウス  
会費300円

新年を迎えるにあたり、会員同士の親睦を図り意見交換を行いたく、新年会をします。口火を切る意味で、環境フォーラムの2025年度の活動計画（ドラフト版）を簡単に紹介しますので、会員の皆さんからの率直な感想・ご意見をお出してください。それを勘案して活動計画を煮詰めますが、今回は、皆さんと一緒に夢を語る「大ぼら吹き大会」にしたいと思います。

「夢を語る」ではこそばゆい。でも、それが実現不可能な“ほら話”に聞こえたとしても、まずはビジョンという目標がなければコトは始まりません。いい歳こいて、なにが夢だ、年寄りの冷や水になるのが落ちだ、なんて自嘲するのはやめましょう。年寄りこそが夢を描けずして、若者に夢を持ってとは言えません。

はとやま環境フォーラムが掲げる夢（目的）は「地域の良好な自然・生活環境の保全（創造）に寄与すること」（定款第3条）と大風呂敷を広げています。その夢の実現に向けて、熊井の森のトラスト活動やまちづくりへの提言

活動などを行っています。

鳩山町に宿泊施設が欲しい、鳩山町の里山をしっかりと残せる仕組みを創り上げたい、若者がどんどん移住してくるような魅力的な町にしたい、鳩山に美味しいコーヒーショップが少ないのは残念などなど。「あったらいいな」の大ぼらを吹き合っ、新年の初夢としましょう。

私もほらを吹きます。個人的な夢でももちろんOK。皆さんのほらもぜひお聞かせてください。本年もよろしくお願いたします。  
（代表理事 愛場 謙嗣）

### ■環境フォーラムの活動報告パネル展示

1月8日(水)～11日(土)の4日間、狭山市の「そよら武蔵狭山（イオンスタイン武蔵狭山）店」で、「武州・入間川プロジェクト活動報告パネル展」が開催され、昨年に続き、当団体もパネル展示参加します。お近くにお越しのときはお立ち寄りください。

### ■鳩山町の観光集客・移住促進政策を聴こう

2月18日(火)午前10時より、かわせみハウスでの「鳩山町まちづくり出前講座」の開催を町役場に申し込みました。講座名は「鳩山町の自然・文化財産など鳩山町の魅力を活用した観光集客・移住促進施策の内容と広報の現状について」です。当団体はこれまで、まちづくりに生かせる鳩山町の自然・文化財産には何があるかを調査し、その結果を2回にわたって発表してきました。今回の講座では、町の事業関連担当課から現状を直接聴いて意見交換するのが目的です。皆様の参加をお待ちしています。

## 1月・2月 活動スケジュール

1月	2日(木)	午前9時～	モミの木調査
	5日(日)	午前8時～	資源回収
	8日(水)～11日(土)	午前9時～	パネル展示
	14日(火)	午後3時～	新年意見交換会
	19日(日)	午前9時半～	理事会
		午後1時半～	定例観察会
	20日(月)	午前9時～	作業観察路づくり
	26日(日)	午前9時～	第5回写真学校
	28日(火)		熊井の森通信38号発行
2月	2日(日)	午前8時～	資源回収
	16日(日)	午前9時半～	理事会
		午後1時半～	定例観察会
	18日(火)	午前10時～	鳩山町出前講座
	25日(火)		熊井の森通信39号発行

## 12月の活動報告

### ■FF2号地に物置テント設置

12月7日(土)午前中、ちよっくま(上熊井農産物直売所)上のハト麦栽培畑(FF2号地)に、会員からレジャー用の本格テントの提供があり、念願の物置を設置しました。床にはコンテナ板を敷き、入口にスチール物置をセット。ピザ窯横に置いてあった農作業用の資材をここに移しました。テントの色合いが渋くて目立つ割には周りに溶け込んでいてなかなかのいい感じです。気候が暖かくなれば、格好の日差し除け避難場所にもなり、コーヒー沸かし道具も置けば、休憩時に一杯も期待でき、これで共同菜園もより楽しいものになりそうな予感がしています。



### ■新たな仲間が共同菜園に参加

11月12日に現地視察の結果、2月から共同菜園の仲間が増えます。飯能在住の愛場結偉さんとドローン撮影をお願いした堀内さん、それに東京在住の隈本さんです。隈本さんは11月のピザ窯招待に来られた若い女性で、仲間5人を誘ってレンタカーを借りて鳩山まで畑に通うとか。嬉しいやら、大丈夫なのかと心配やら。彼女の詳しいプロフィールは後日のお楽しみ。そんなわけで、共同菜園(FF1号地)仲間が一挙に増え、FF2号地にも確保し、畑作業のルールなどの受入れ体制づくりが急がれます。2月からの野菜づくりの開始に向けて、12月2日と5日にFF2号地全面の草刈りをしました。このあと、お借りしている畑の地主さんがトラクターで耕して下さるとのことです。

### ■上田さんを囲んで賑やかに忘年会

12月7日夕方4時から、日本野鳥の会会長上田恵介さんが出演したテレビ番組「武田鉄矢の昭和は輝いていた」(10月18日BS放映)の録画を見ながらの忘年会に、総勢23人が集まりました。参加者からの質問に、上田さんが解説しながら懇談するという特別企画でした。参加者たちは熱心に見入っていて、各シーンで質問が次々と出てきました。「熊井の森に特別外来生物ガビチョウ(画眉鳥)がいると聞かすが、ほんとうにいるのか、実害はあるのか」とか「モズは留鳥か? 渡り鳥か? 秋に見かけるが夏はどこにいるのか」とか、コウノトリの飛来に

### 渡部佐知雄さんの思い出



▲ハト麦作付後のひと休み 麦わら帽子が渡部さん(2023年5月17日)

「はとやま環境フォーラム」でハト麦栽培などのアドバイザーとして活動され、病气療養中だった渡部佐知雄さんが11月15日に旅立たれました。86歳。

渡部さんは近隣の家庭菜園仲間たちにも気さくに声を掛け、有機農業の面白さを教えてくれました。

エスペラント語話者でもある渡部さんは1994年7月に韓国ソウルで開催されたエスペラント世界大会に参加されたり、健康づくりのために整体法を学んで友人知人に手当を施してくれたり、町内のカラオケグループに参加されるなど、とても勉強家で柔軟な幅広い生き方をされた方だと私は尊敬しています。

奇しくも、渡部さんの生まれ変わりのようにひ孫さんが誕生しました。神様が渡部さんの旅立ちを祝福されたのでしょうか。感謝!(竹林 信明)



ついてなど、さすが自然大好き人間たちのお集りならではの質問に、上田さんは、「ガビチョウはいるようですね、見た人がいると聞かすが、実害は聞いていない」「モズは、夏は山へ、涼しいところへ」「コウノトリが埼玉県に飛来してくると聞いた」などと、ひとつひとつ丁寧に穏やかな表情で答えてくださいました。

録画放映のあとに、会員の大平さんが中国の伝統的な弦楽器『二胡(にこ)』で、ホワイトクリスマス他2曲をサプライズ演奏。飄々とした美しい音色に、皆、耳を傾け、盛りだくさんの賑やかな忘年会でした。

## 協生農法への取り組み 2年目に向けて

熊井の森の里山周辺の休耕地活用策のひとつとして、2024年5月から始めた協生農法。いろいろ勉強し、実践農場の見学などもしたのですが、去年は何もかもが初めてなので失敗の多い結果になってしまいました。

たとえば、野菜は40種類くらい種を播き、芽を出し成長してきたのですが、より成長の早い雑草に負けて、食べられたのは大きく背を伸ばしたトウモロコシとオクラだけでした。しかも、やっとできたトウモロコシは猪君のご馳走になってしまいました。



▲夏の協生農場 さすがに雑草が繁りすぎ（8月6日）

反省点は種を播くタイミングが遅すぎたこと、草刈りの頻度が少なすぎたことです。去年の異常な暑さに対応した水撒きができなかったのも悔やまれます。

そして、冬野菜は10月に入って期限ぎりぎりに20種くらい種を播きました。バケツの中にすべての種を入れ、混ぜて、畑に適当にばら播くというやり方です。そのうち10種類くらいが食べられるくらいに成長しました。葉野菜は小松菜、冬菜が良かったですね。しかし、



▲冬の協生農場での間引き作業（12月7日）

ほうれん草は芽が出ませんでした。きっとPHの関係だと思えます。

根菜類は、ダイコン、カブ、ラディッシュなどが食べられるまでになりました。白菜、キャベツは芽が出ませんでした。やはり種まきのタイミングが遅かったのでしょうか。冬野菜は背の高い雑草の成長がほとんどないのでのびのび成長できたようです。虫に食われることもなく収穫することができました。また、10月30日に播いた種は、まだ暖かったうちに芽が出てきましたが、11月中旬を過ぎて気温が下がって来るとほとんど成長が止まってしまいました。

やはり種まきの時期は大切ですね。それと太陽の光。根菜密集が協生農法の基本ですが、それでも播いた種の密度も高すぎました。良かった点では農薬を使っていないにも拘らず、虫に食われることがなかったことです。

2年目になる今年は種まきをタイムリーに行い、草刈りをしっかりやろうと決意しています。（井田 清）

当事者として考える「里山のあり方」

## 「熊井の森」づくりの基本知識 ⑥

これまで5回にわたって、「里山」というものが「自然が人に使われることで維持されてきた環境」であることをお話してきました。

そして、その使われ方や価値というものが時代時代が変わってきていて、昔はより直接的な林産品の生産であったものが、近年では里山が持つ生物多様性やレクリエーションの場などのサービスに重きを置かれるようになってきたといえるでしょう。

これは今まで限定的だった里山の目的が、さらに広く設定できるようになり、「自分たちの里山の在りかたを自分たちで選べる」時代になったとも捉えることができます。

例えば、昔の里山の豊かな生物多様性を復活させるの

か、あるいは今ある里山の独自の生物多様性を維持してゆくことを目標にするのか。その際に、レクリエーションの価値と生物多様性の価値と



のバランスをどう取るべきなのか。簡単には答えは出ませんが、当事者として、どういう里山にしたいのかを、仲間と一緒に学び、考え、試行錯誤を繰り返しながら、より良い「里山」にしてゆきたいものです。（おわり）

## ニート 熊井の森歳時記

### 霜柱をもう一度踏みたい



#### ▲一面に降りた霜（協生農法の畑にて 11月30日）

先日朝8時半頃、熊井の森の麓にある協生農法実験地に野菜を頂きに行ったら、びっくりしました。森の東側はすでに日ざしが差し込んできましたが、反対側の方はまだ重そうな霜に覆われ、真っ白の世界でした。森の朝のイメージと、私が住んでいるニュータウンの朝は全然違うことにも初めて気が付きました。

小松菜や大根や雑草は霜の威力でふにゃふにゃになってしまいましたが、霜が解けた途端に、たちまち、びんぴんとなって、生命力の強さが無言に示されました。でも、ちょっと寂しかったのは、霜柱に出会えなかったことでした。子どものときは、畑に霜柱がたくさんあって、足で踏むと、霜柱が崩れていく姿を見ながら、ザクザクとした音で足裏から振動が伝わる感覚を楽しんでいました。そういえば、クレヨンしんちゃんのアニメにも霜柱を踏みつけるシーンが出てきますが、きっと、そこには作者の思い出がいっぱい詰まっていたでしょうね。

けれども、地球温暖化がどんどん進むと、このような本来当たり前前の冬の風物詩はいつかは消えてしまうのかしら？ 霜柱をもう一度踏みたい、霜柱がいつもあるように環境を守っていきたいと思いながら、真冬の森の朝がやはり素敵だなと一人でつぶやきました。（王 菲）

#### 【活動後記】

■11月、かわせみハウス事務室に新たにエアコンを設置。これで、事務作業だけのときは会議室フリースペースのエアコンは付けずに済み節電になりそう。ご寄付いただいたミニ耕運機は毎年稼働し大いに役立っています。山仕事などで機材の荷揚げなどに使う、キャタピラ付きの運搬機(中古)を数年前に助成金で購入。保管していた人から「しばらく使っていなかったのでエンジンがかからない」と言われていたが、若い会員が始動してみたら、あっけなく稼働恐れ入りました。■資源回収協力者から高枝切り機と畑の水槽に使えるプラ池の寄付あり。■12月21日、5年ぶりにかわせみハウスの会議室スペースのワックス掛け。その前1時間、約30キロ採れた今年収穫ハト麦の小枝や葉っぱと実との分別作業。はたして、その何割が頒布できる実となるのか。■年内は熊井の地元の方との協議（活動報告と来年度の活動計画案の説明）で仕事納めです。

## 森の中へ

自然にふれ、生きものから学ぶ月例散策便り ⑩

### 冬の森で陽射しのいい日はお散歩日和



#### ▲ルリビタキ

冬になると多くの草木の葉がなくなり、それに伴い虫などの生き物も見られにくくなりますが、私たち人間が森に入って活動するには気持ちの良い季節となります。

夏場は少し歩くと暑くなり、道にはジョロウグモが巣を張っていて、セミなどの生き物の声が常に聴こえているのですが、冬なら歩いて体が温まると丁度良く、クモの巣もないのでテンポよく歩けます。

また、葉が落ちたおかげで地面にまで日が当たり、風もあまり吹かないため陽だまりの林床は想像以上に静かでポカポカしています。独特な落ち葉の香りや、落ち葉の上を歩くときのサクサクとした小気味良い音も冬の森をお散歩するときの楽しみの一つとなっています。

日当たりのよい林床にお弁当とコーヒーを広げてちょっと一休みをしていると、森の中からはルリビタキやシジュウカラ、エナガなどの鳴き声が聞こえてくることもありますし、静かにしていれば姿を見せてくれることだってあります。

時間に追われてあくせくせずに、たまにはゆったりと冬の森をお散歩してみる日があってもいいのではないのでしょうか。（愛場 結偉）

### 定例観察会のご案内

開催日：毎月第3日曜日  
集合場所：かわせみハウス前  
集合時間：午後1時半  
（終わりは午後3時過ぎごろ）



はとやま環境フォーラムは熊井の森のより良い在り方を探るため、月に一度、熊井の森に入り、森や周辺の変化を楽しみながら、その時々に出会えた生き物を観察記録する定例観察会を行っています。

ご興味のある方はどうぞお気軽にお越しください。  
鳩山ニュータウンかわせみハウス前に午後1時半に待ち合せて、相乗りで熊井の森に向かい、帰りもご一緒できます。